



## 金丸 恭文

副代表幹事  
2005年度 外交・安全保障委員会 委員長  
2006年度 行政改革委員会 委員長

フューチャーシステムコンサルティング  
取締役会長兼社長

**製**造コスト1個数百円の地雷が“戦争の時代”20世紀に地球上にばら撒かれた。人類が残した大きな負の遺産である。すべて取り除くのに10世紀はかかるそうだ。『プロジェクトX』にも登場したジオ・サーチ社の富田社長に同行して今年の3月、社内に呼びかけ9人の有志と一緒にタイ・カンボジア・ラオス国境の地雷撤去視察に出かけた。バンコクから北東に600kmのウボンラチャタニ空港着。翌日は1時間半のバス移動にて、タイ王国カオ・プラヴィーハン国立公園の中にあるベースキャンプに着き、既にJAHDS（人道目的の地雷除去支援の会）のプロジェクトにて地雷除去が済んだ国立公園内のプレア・ヴィヒア寺院を訪れた。

プレア・ヴィヒア寺院はアンコールワットよりも古いクメール遺跡で、およそ1000年前に300年かけて建立されたそうである。ここはかつての激戦地であり、地雷・不発弾が非常に多く存在するエリアだ。目の前に広がる広大な自然の中に潜む数えきれない地雷に、地道な撤去作業が続けられる。この地雷撤去プロジェクトは、タイの民間人

とタイ国軍の混成で構成されているが、日本も支援している。既に撤去が完了したプレア・ヴィヒア寺院には昨年30万人の礼拝者や観光客が訪れ、周りにはレストランやショップもオープンした。

3国の国境に、攻める方・守る方の双方により敷設された地雷や不発弾に、なんともやりきれない思いを抱きながら、少しずつ解決しようとする世界中の人たちに、敬意と感動を覚えた。国際事業やアジアとの相互理解は机上からの提言を超えた、我々の行動にかかっていると痛感している。

図らずも外交安全保障委員会の委員長という大役を仰せつかり、「地球益と国益のバランス」というキーワードを、委員会顧問にお願いした福川伸次様（電通顧問）から頂戴した。地雷撤去に留まることなく、町興し、雇用の創出、産業復興などを見据えて行う貢献の重要性を学んできた。これこそ焼け野原から奇跡的な復興を遂げた日本の経営者たちの使命かもしれない。どんな世界貢献・社会貢献ができるか？我々経済人の21世紀の新しいテーマである。

## Contents

巻頭言 金丸恭文	地雷撤去視察を終えて	001
特集	2006年度 代表幹事 所見／通常総会	002
リレートーク 加藤丈夫	藤田とFoujita	008
委員長インタビュー	企業価値向上委員会 藤木保彦 経営改革委員会 有富慶二 金融・資本市場委員会 氏家純一 政治委員会 林野宏	009
経済同友会最前線	企業価値向上委員会提言 他	013
2006年度委員会委員長等		021
同友会スケッチ	2006年4月の記録と6月の予定	023
新入会員紹介	2006年4月21日現在の入退会者	025
私の思い出写真館 前原金一	35年ぶりの再会	026